

第 36 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2017. 4. 28 熊山 ともみ

『吸入ステロイド喘息治療剤 アニユイティ』

グラクソ・スミスクライン(株) 松下 哲也さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：小俣貴嗣先生、相原美穂、細川亜希子、薦田麻莉子、小瀬村恵理、熊山ともみ

喘息という疾患は、気道の炎症が症状のないときでも常に起こっている状態を言う。喘息治療のゴールは、発作時、症状を抑えることだけではなく、「発作自体が起こらないようにし、健常人と変わらぬ生活を送ること」とされている。

さまざまな喘息治療薬が発売される中、今回は長期管理薬（コントローラー）として 2017 年 4 月に承認されたばかりの「アニユイティ」について学んだ。

【適応】

気管支喘息

【用法・用量】

通常、成人にはアニユイティ 100 μ g エリプタ 1 吸入を 1 日 1 回吸入投与する。

なお、症状に応じてアニユイティ 200 μ g エリプタ 1 吸入を 1 日 1 回吸入投与する。

【禁忌】

- 1、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2、有効な抗菌剤の存在しない感染症、深在性真菌症の患者 [ステロイドの作用により症状を増悪するおそれがある。]

【副作用】

総症例 2394 例中 145 例 (6.1%) に報告あり、主なものは口腔カンジダ症 24 例 (1.0%)、頭痛 17 例 (0.7%)、中咽頭カンジダ症 16 例 (0.7%)、発生障害 16 例 (0.7%) や、味覚異常などが報告された。

【特徴】

- ・吸入容器エリプタは 1 アクションで吸入することができる。
- ・1 日 1 回の吸入で 24 時間の効果安定性を示す。
- ・抗炎症効果を示す、フルチカゾンフランカルボン酸エステル (FF) はレルベアと同

成分であり、フルタイドの成分フルチカゾンプロピオン酸エステル（FP）に比べ、抗炎症効果が1.7倍である。

【考察】

喘息治療において大切なのは、発作自体を起こらないようにすることだ。そのためには、コントローラーとされる長期管理薬のコンプライアンスが大切となってくる。レルベアやアニュイティは、1日1回の投与で24時間の安定性を持ち、さらにデバイスが今までのロタディスク製剤では7アクション、ディスカス製剤では2アクションであったことに比べ1アクションで吸入まで出来るといった簡便さを有している。また、FFはPFよりも抗炎症効果に優れているため、アドエア/フルタイドからの切り替えが考えられるが、適応が成人のみとなっており、これからの適応取得に期待したい。副作用報告ではPFに比べ、FFのほうがやや多かったようす、いずれにしてもステロイド服用時の口腔カンジタ予防にうがい実施等の適切な指導をしていきたいと考える。